

議会 だより



耳川で鮎釣り解禁

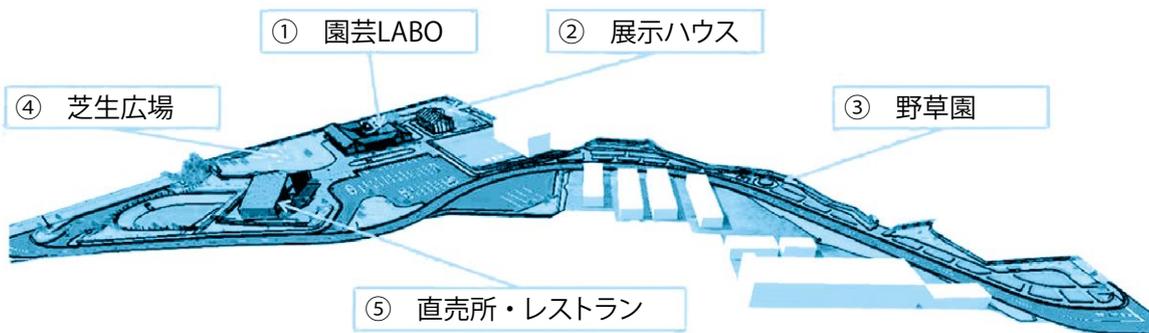
6月15日に、耳川で鮎釣りが解禁されました。当日は、シーズンを待ちわびた多くの釣り客で賑わっていました。

まちの話題	2~3
6月定例会	4~5
常任委員会の動き	6~7
一般質問	8~9
現地視察	10
全員協議会	11

特別委員会の動き	12
組合議会の動き	13~14
町村議会議長・副議長研修	15
知っ得議会シリーズ13	15
議会と語ろう会のお知らせ	16
編集後記	16

福井県園芸体験施設 久々に7月20日オープン

久々に立地する福井県園芸研究センター内に「園芸 LABO の丘」として7月20日オープンに向け急ピッチで整備が進められています。この施設は「学ぶ」「作る」「食べる」の実体験を通して、園芸を楽しみながら理解を深めていただく「時間」と「空間」を提供するものです。ここには以下の施設ができます。(竹仲記)



①園芸 LABO

- ・トマトを使ったピザづくり
- ・ミクロの観察、野菜の栽培講習などの園芸体験



②展示ハウス

- ・巨大トマトや世界のトマトを展示



③野草園

- ・春の七草など、食べられる野草等を植栽
- ・園芸体験にも活用



まちの話題

町内の様々な話題をお知らせします。

若狭美浜インター産業団地調整池に 太陽光発電設備を整備

6月補正予算において、3億268万円を計上し、若狭美浜インター産業団地の調整池に太陽光発電設備を整備することを決議しました。この太陽光発電電力を既設進出企業に廉価で供給し、その売電収入を原資として基金化し、産業団地への企業誘致活動を広く展開することを目的としています。

この予算は、エネルギー構造高度化・転換理解促進事業補助金(原子力補助金)を利用させていただくことにしています。システム容量は約860kW、年間推定発電量は約834MkWhを見込んでおり、来年4月供用開始の予定で進めます。(竹仲記)



若狭美浜インター産業団地の調整池

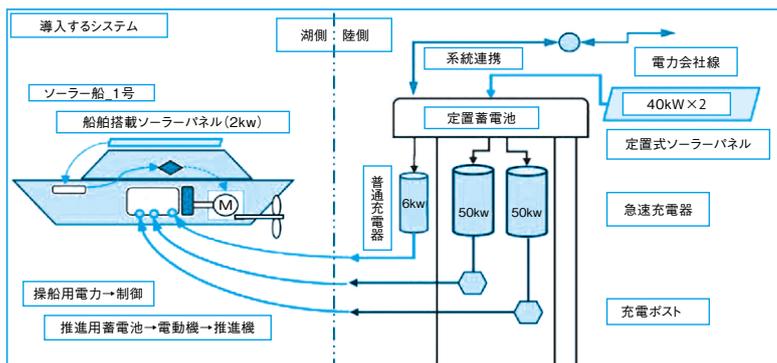
久々子湖に電気推進遊覧船の運航実証実験決定

平成28年12月に久々子湖の遊覧船が運航を停止しました。その後、地元や観光関係から運航再開の要望があり、三方五湖ゾーンの観光の目玉として、新たな遊覧船を運航させるための、実証実験を行うことになりました。今回の6月補正予算で2億1,736万4千円が計上され、決議されました。

これは、太陽光発電を活用したシステム開発、船体の設計、三方五湖での運航実験、電気推進船の造船が予算の主な内容で、エネルギー構造高度化・転換理解促進事業補助金(原子力補助金)、「新ふるさと創造」推進事業補助金(県の補助金)を利用させていただくことにしています。(竹仲記)



電気推進船のイメージ図



電気推進船の電力供給システム

6月定例会（6月5日～20日）

6月定例会は、5日から20日までの16日間の会期で開催されました。

開会日には、下表に示す計11件の議案が上程され、町長の提案理由の説明の後、それぞれ予算決算常任委員会、総務文教常任委員会及び産業厚生常任委員会に議案が付託されました。

最終日には、各常任委員会の委員長報告と11議案の採決が行われ、全ての議案が承認可決されました。また、7月2日の任期満了に伴う、選挙管理委員4名と補充員4名の選挙が行われ、全員承認されました。

町長の提案理由の説明では、美浜・五木ひろしふるさとマラソンのお礼や、今年から新設されたウォーキングの部に264人の参加があった旨の報告がありました。また、子育て支援、ふるさと納税、健康づくりの推進、さらに、町づくりの「3つの柱」とそれに付随する取り組みについて詳細説明がありました。

6月の一般会計補正予算額は19億1,454万円となりました。主な事業として、庁舎改修事業（空調設備等改修工事）に9,354万円、若狭美浜インター産業団地の調整池の上に太陽光パネルを設置する公共用地等太陽光発電設備整備事業に3億268万円、民生費では、保健福祉センター（はあとびあ）大規模改修事業に4億1,215万円、商工費では、三方五湖ゾーン整備事業に2億1,736万円、土木費では、町道日向線道路改良工事に1億240万円、美浜町スマートコンパクトシティ魅力創造拠点化事業に2億777万円が計上されました。これらは予算決算常任委員会にて審議されました。



「美浜・五木ひろしふるさとマラソン」新設のウォーキングの部



美浜町健康福祉センターはあとびあ

議案と採択結果

議案 33号	令和元年度美浜町一般会計補正予算（第1号）	賛成多数
議案 34号	令和元年度美浜町診療所事業特別会計補正予算（第1号）	全員賛成
議案 35号	令和元年度美浜町国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	全員賛成
議案 36号	令和元年度美浜町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）	全員賛成
議案 37号	令和元年度美浜町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	賛成多数
議案 38号	美浜町税条例の一部を改正する条例の制定について	賛成多数
議案 39号	美浜町災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成
議案 40号	美浜町母子家庭等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成
議案 41号	美浜町重症心身障害児（者）福祉手当支給条例及び美浜町心身障害者医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成
議案 42号	美浜町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	賛成多数
議案 43号	美浜町森林環境譲与税基金条例の制定について	全員賛成

令和元年度 一般会計 6月補正予算概要

一般会計補正予算(6月) 19億 1,454万円を可決 補正後予算総額 87億 5,000万円

◎ 歳出予算の内訳 (主要事項) ● : 新規事業 ○ : 拡充事業 (単位: 万円)

款	補正額	主要事項	金額	事業概要等
総務費	42,787	庁舎改修事業 (空調設備等改修工事)	9,354	温室効果ガス(CO ₂)の削減対策として、庁舎の空調設備、照明のLED化等の改修を行う工事費
		○ がんばる美浜人応援事業	609	町の活性化に繋がる地域活動等を自主的かつ自立的に行う区・自治会及び各種団体を支援する補助金
		● 集落元気プラン策定応援事業	532	集落活動維持や集落の活性化を目的とした『集落元気プラン』の策定業務委託料
		公共用地等太陽光発電設備整備事業 (若狭美浜インター産業団地)	30,268	若狭美浜インター産業団地の調整池に太陽光発電設備を導入する工事費
民生費	43,190	子育て世帯等支援プレミアム付商品券事業	1,259	子育て世帯等支援プレミアム付商品券を発行する経費
		保健福祉センター大規模改修事業	41,215	保健福祉センターの長寿命化を図るとともに子育て支援センターの移転を実施するための工事費
農林水産業費	15,503	中山間地域総合整備事業(一般型)	6,000	町内における中山間地域総合整備事業の管水路工事費及び防災施設の測量試験費等の県営事業負担金
		● 丹生地区農業用施設改修事業	1,151	丹生地区において老朽化した農業用施設を改修する設計業務委託料及び工事費
		● 菅浜地区農業用施設改修事業	2,067	菅浜地区において老朽化した農業用施設を改修する設計業務委託料及び工事費
		● 森林経営管理事業	370	今後の森林整備に向け、間伐や人材育成、木材利用の推進等を目的とした基金を造成するための基金積立金等
商工費	23,687	○ 三方五湖ゾーン整備事業	21,736	遊覧船再開に向けた電気推進船のシステム開発及び実証実験、造船工事の経費
土木費	63,323	町道日向線道路改良事業	10,240	町道日向線を拡幅する道路改良工事に伴う用地、物件補償費
		町道太田・上野線道路改良事業	6,708	町道太田・上野線を拡幅する道路改良工事に伴う用地、物件補償費
		町道駅前線道路改良事業	9,008	町道駅前線の拡幅及び役場への延伸に伴う用地、物件補償費
		美浜町スマートコンパクトシティ魅力創造拠点化事業	20,777	地域づくり拠点整備(道の駅)に向けた調査業務委託料、用地買収、移転補償費等

※上記内容のほか、機構改革及び人事異動に伴う人件費の減額補正等を計上(▲2,584万円)

各議員の賛否一覧

議席順に掲載(○賛成 ×反対 ー欠席 □退席) ※議長(崎元良栄)は採決に加わりません

	仲嵐	高橋	寺田	梅津	河本	辻井	川畑	松下	山口	藤本	兵庫	北村	竹仲
議案第33号	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○
議案第37号	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第38号	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第42号	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○

※反対または退席があった議案だけ載せています。それ以外の議案7件については全員賛成です。

常任委員会の動き

予算決算
常任委員会

付託案件5件

予算決算常任委員会には5議案が付託されました。一般会計補正予算に関する議案が1件(主な概要は5頁の表を参照)、また、特別会計補正予算に関する議案が4件(診療所事業1件及び医療、福祉事業の3件)あり、審議の上、全て承認されました。

◎令和元年度美浜町一般会計補正予算(第1号)

(総務費)

問 運転免許を返納した場合、返納者の行動範囲が狭くなると思うが、これについてどう考えているのか。

答

交通事故による加害者だけでなく被害者も出さないようにすることがこの制度の目的である。コミュニティバスは2時間に1本と不便であるため、今回タクシーやバスも利用できるようにした。他の市町と比べても優遇された制度内容といえる。

ち16トンが美浜分である。

(商工費)

問 三方五湖ゾーン整備事業では、電気推進船システム開発・実証実験として、約2億円をかけて太陽光発電による電気推進船造船工事等を実施するが、その説明を。

答

再生エネルギーを活用した遊覧船の検討から始まり、ソーラー発電で船を動かす事も視野に置いたが、事実上困難であったため、ソーラーパネルの発電電力をモーター動力に使うハイブリッド方式で検証している。また、陸上のソーラー施設からも船に電力を供給して、環境・経済・快適性そしてCO2の削減を図れる遊覧船計画となっている。

(土木費)

問 道路新設改良費において、町道久々子・金山線道路改良工事、町道郷市線道路改良事業があるが、工事内容の説明を。

答

日向線は、レインボーライン残り140mの区間工事である。久々子・金山線工事は、西小学校前とJR踏切までの工事で、県道からの歩道工事が残っており、今年度実施設計を行い完成にはまだ2年程かかる。郷市線工事は、役場から愛月堂までの130mの区間で現在側溝と拡幅工事を行っている。

から。郷市線工事は、役場から愛月堂までの130mの区間で現在側溝と拡幅工事を行っている。

(教育費)

問 地区公民館施設整備事業として、北西郷公民館をモデル地区として実施しているが、他の地域への波及状況はどうなっているのか。

答

モデル事業として展開している北西郷地区は、旧北小学校を公民館として利用しているため、施設的にも充実した活動が図られている。南西郷地区については、旧文化財室で職員を配置して実施している。その他の2つは、役場の施設と併用する公民館で、各活動には施設も含め温度差もあるので、今後の展開を考えて進めていきたい。

◎令和元年度美浜町診療所事業特別会計補正予算(第1号)

問 丹生診療所の診察日はいつで、予約が必要となるのか。

答

今年状況は、月、水、金曜日が診察可能日となっている。ただし水曜日の午後は休診になる。予約については、休診日がある為、あらかじめ本人の希望を聞き受診出来るようにしていきたい。

(辻井記)

法改正等により、個人住民税及び軽自動車税の関係規定を整備する必要があるとする「美浜町税条例の一部を改正する条例の制定について」の1議案を審議し承認されました。

問 個人町民税関係の申告書記載事項の簡素化について、一定の簡便な記載とは、どのようなことを指しているのか。

答 国税の申告をする際に各控除項目の金額を記載する欄があるが、給与支払報告書に記載されている合計金額を記載するだけで済むようになる。

問 子どもの貧困に対応するため、前年の合計所得金額が135万円以下であるひとり親を対象に加えるということは、母子家庭も父子家庭も対象になるのか。

答 その通りである。しかし、祖父母と同居している場合など、家庭の収入状況によって非課税措置の対象にならないケースも出てくる。事実婚や同居などの状態を確認する必要がある。

問 種別割という言葉も出てくるが、軽自動車税とは別に、救急用の車両は種別割に該当するものとして更なる軽減措置があるのか。

答 これまでの軽自動車税のことを種別割という表現に変えるということであり、購入時に支払う税が10月から施行される環境性能割、毎年かかる税が種別割ということになる。環境性能割は、軽自動車の取得価格に税率を掛けて納めるものになっている。

非課税になるものについては、日本赤十字が所有するものが非課税の対象となっていたが、これが具体的に、救急用のものに加え、巡回診療又は患者の輸送の用に供するもの、血液事業の用に供するものと法律に明記された。

(1) 議案第38号 美浜町税条例の一部を改正する条例の制定については、賛成多数をもって承認することと決しました。(河本記)

産業厚生
常任委員会

付託案件5件

「災害弔慰金の支給」「母子家庭等医療費の助成」「重症身障児(者)福祉手当支給及び心身障害者医療費

の助成」「介護保険等の条例」4議案の一部改正と、森林環境譲与税基金条例の制定1議案を審議し、5議案全て承認されました。

問 災害弔慰金であるが、超低金利時代であり貸付金利3%から1%に下げるのは良いと思うが、これまで災害弔慰金等を支給・貸付けた実績は。

答 災害弔慰金等は3種類あり、災害弔慰金、災害見舞金、災害援護資金貸付けになる。このうち災害弔慰金は過去に支給実績はあるが、災害見舞金と災害援護資金は実績がない。ただし、災害援護資金の貸付は、あくまで本人からの申請によるものである。

問 母子家庭等医療費の助成適用を判断する前年所得の期間の見直しがなされたが、その理由は。

答 国の児童扶養手当に関する法律が変更になり、それに伴い県の一人親の医療費助成制度も同様に変更になったため準じて変更した。

問 森林環境譲与税基金であるが、この基金の積立期間や積立金額等の具体的な計画はあるのか。

答 今年度から3年間は330万円、次は500万円程度で

徐々に増額されると聞いている。また、使途については、森林の整備に関する施策、森林の整備を担うべき人材の育成及び確保、森林の有する公益的機能に関する普及啓発等の費用となっている。町独自で委員会を設け課題の洗い出しを実施し、集中的に施策を展開していきたい。

問 日本の林業はほとんど破綻している。新庄地区においても約6000haの山林を持ちながら雇用はゼロである。森林組合の活動はあるが、実際に木を販売し、その収益で運営していく状態にはなっていない。この様な中で、どの様に人材を育成していくかは至難の業と思うが、どう実現していくのか説明願う。

答 適正な管理がされていない森林は、森林経営管理制度の中で、優良な林業経営者に委託していく流れがあるが、該当する優良な経営体は、嶺南一円で森林組合のみである。本事業は、美浜町単独ではなかなか難しいと思う。県が中心に事務局を持つて頂き嶺南6市町が連携しながらそれぞれの計画を持ち寄り、森林組合もその中に入って貰い、森林組合の受け皿として、どういった人材育成が可能か等に取り組んでいかなければならないと考えている。(梅津記)



高橋 修 議員

人口減少加速化への対応を

問 人口減少対策が待ったなしである。今年4月の町の人口は9317人で、2025年に9400人確保という町の日標を早くも割り込んだがどう考えるか。

町長 想定以上に減少していると思う。折しも本年度から、総合振興計画と創生総合戦略の見直しに入るので、現状を直視し、課題の所在をつかみ、若者の意見も反映してしっかり対策する。

20年先を見た議論を

問 平成は、将来への備えなく今を楽しみ過ぎた時代と言われる。人口減少問題は平成の産物だと思う。その反省を踏まえ、常に危機感を共有し、20年以上先の町のあるべき姿を議論する場と仕組みが必要と思うがどう考えるか。

町長 そういう視点は、まちづくりには重要かつ不可欠と考え

る。総合振興計画と創生総合戦略の見直しにおいては、町の現状をしっかりと伝え、アンケート・町民対話・集落対話・若者対話・地元就労者対話等々、様々な視点の意見が反映できる体制を整えたい。

行政の強いリーダーシップを

意見 人口減少は今や避けようがままならない集落が増える。いかにこうした危機を回避するかという視点もしっかり持って対応願いたい。

げんげん運動は浸透したか

問 2013年から5年間、げんげん運動が行われたが、町民にどの程度浸透し実践されたのか。

健康づくり課長 平成27年度と29年度のアンケートでは、げんげん運動の認知度はいずれも9割以上何らかの検診受診率も、68%だったものが88%に向上している。また、げんげん推進集落(21集落)の報告では、健康意識の向上や食事が薄味になった等の感想があり浸透していると考える。

町民の健康度はアップしたか

問 げんげん(歩楽寿)運動の目的は町民の健康度アップだが、美浜の1人当たり医療費はいまだ県内で上位と聞く。本当に町民の健康度はアップしたのか。

健康づくり課長 総合振興計画に特定健診の受診率とげんげん運動実践者割合等の目標を掲げ、健康みはま21後期計画に16項目のその評価指標を設け、これらを健康度アップを示すデータと捉えている。この内4項目は目標達成、7項目は未達だが改善、5項目は改善なしであり、この結果をふまえ、げんげん歩楽寿では野菜摂取と運動を加えた。

健康づくり・医療・福祉を融合した活動の展開を

問 美浜町は、凡そ4割の人が65歳以上の超高齢社会だが、認知症予防を含め介護予防や健康寿命という視点での、目標と施策が伝わってこない。町の現状を住民に明示し、1人当たりの医療費、介護認定率、健康寿命等の評価項目と目標を設定し、地域や各種団体と連携した、効果的でわかりやすい内容への見直しが必要と思うがどう考えるか。

心が伝わるコースの整備を

町長 総合振興計画、健康みはま21後期計画、介護保険事業計画等の中で、目標・KPI・行動指標を定め、各種団体等と連携しながら健康づくりを進めている。しかし、町が掲げる健康目標とプロセスを、町民にわかりやすく伝えることが、健康行動には重要と言われるので、町民、団体、企業等と連携して、効果的な健康づくりを検討していきたい。

問 美浜は自然豊かな町だが、多くの老若男女が、安全・快適にアクセスでき、その豊かさが体感できるウォーキングやトレッキングコースは少ないと思う。また交流人口をふやすためにも、訪れる人におもてなしの心が伝わり、町民が誇りに思えるコースの整備が大切と思うがどう考えるか。

町長 本町の豊かな自然景観、文化財、史跡等を生かしたウォーキング、さらにはトレッキングコース、こうした運動環境の整備は、健康づくり面、観光面からも非常に効果的だと思っている。また美浜を知ることには地域愛につながるので、活用いただけるコースの整備、既存のコースの普及啓発等をしつかり進めていきたい。



河本 猛 議員

**担い手の育成、生業を確立
する支援事業が弱い！日本
農業遺産に認定された三方
五湖について**

問 三方五湖が、福井県内で初めて日本農業遺産に認定された。

内水面の漁業・養殖業の後継者、担い手を増やすには、漁獲量や販路の拡大により生活の基盤を整え、安定した収入を得ていくことができるかが課題である。

シジミなどの漁獲量の推移、水産加工品の販路拡大の実績は上がっているのか。

産業振興課長 久々子湖のシジミ漁獲量は昭和57年における45トンが最高値であった。その後、水質悪化やコンクリート護岸化による渚の消失に伴い漁獲量が激減した。

平成4年から平成16年にかけては、

1トン前後の極めて低い水準で推移したものの、その後、浅場造成や種苗放流、漁獲制限を進めた結果、今は年平均5トンを超えるレベルでやや回復傾向にある。平成29年度の実績は年5・1トンとなっている。また、ウナギについては、平成29年度実績で年160キロの漁獲量がある。残念ながら、久々子湖産の水産加工品は、市場販売されているものは確認されていない。

問 生業として生計を立てられるだけの実態があるとは言えない。美浜町では、担い手の育成や、生業を確立する支援事業が弱いと考えている。

経済性を高めて生業を確立することが世界農業遺産への足がかりになると考えるが、行政は世界農業遺産への課題をどのように考えているのか。

町長 漁獲量の増加、生計の保障に必要があると指摘されている。

つながらる取り組みを行っている。生業が成り立つためには、生産量を確保する、付加価値をつけていくことが大事である。流通、消費の流れも構築することが必要と考えている。町として、生業につな

がるような取り組みを支援する活動を続けていきたい。

問 ソーラー船よりも再エネを活用した内水面養殖業に視点を

変えたほうが、三方五湖周辺地域としても町としても効果が望めるのではないか。ソーラー船の導入が世界農業遺産への効果的な役割を果たせる要素があるのか。

町長 伝統漁法にかかる現地の臨場的な見学や映像を交えた紹介

ができる点において、乗船による方法が唯一効果的な手段ではないかと考えている。三方五湖における伝統漁法にかかる認知度の向上、漁業者の生業の保障につながる効果的な役割を果たせる要素の一つになると考えている。

**明確な集客目標を持つべき
だ！美浜町健康楽膳拠点施設
「こるば」と、その指定管理者
に決定した「グッドスタッフ」
について**

問 「こるば」で働くことになる

かもしれない町民にとっても影響があることなので、労働賃金、人件費の想定について伺う。

観光戦略課長 指定管理者、申請時の計画では、4月からの営業として計画し、人件費としては総額で

1500万程度を見込まれている。募集内容では、施設支配人として月額22万という金額で募集をされている。年収としては264万というような額になるかと思う。

問 年収200万円台だったら働く貧困層。ダブルワークが

必要になるような水準である。業務の負担が大きい割には低収入で、これで魅力ある施設を運営できるか、質を維持できるか疑問に思う。

町が建設した施設である以上、年間の集客目標を明らかにせよ。

観光戦略課長 集客目標というのは立てていない。グッドスタッフが出された見込みによると、1日50人、約300日ということ、年間1万5000人といったところが基準になるのかと考えている。

意見 集客目標がないとなると、私

たちも目標に対する進捗や達成率を確認できない。集客目標を持つというのは基本なので、明確な集客目標を持つべきだ。

現地視察

6月14日に、全議員と町長を含む行政側の関係職員で、県の農業園芸研究センター内に整備した「園芸LABO（ラボ）の丘」と結球レタスを人工光で栽培している「(株)NOUMANN（ノーマン）植物工場」の2カ所を視察しました。

園芸LABOの丘

昭和13年に、県の農事試験場として設立された、歴史ある園芸研究センター内に、県が整備を進める園芸体験施設です。

センター内に園芸交流課が新設され、「楽しみながら園芸への理解を深める」をコンセプトに、「食べる・作る・学ぶ」をテーマとした園芸体験教室や栽培講習が開催されます。

新たに造成された野草園には、すでに色とりどりの食べられる野草が育ち、スマートな園芸LABOと展示ハウス建屋はほぼ完成していました。

昨年プレオープンした町の健康楽膳拠点施設「こるぱ」と併せ、魅力ある観光・健康・産業・賑わいの拠点として、7月20日にオープンしました。



「園芸 LABO の丘」内に造成された野草園

(株)NOUMANN 植物工場

美浜町大藪にある(株)NOUMANN様の植物工場です。「新しい農業を福井から」をミッションとして、平成28年1月に操業を開始され、自動化された人工光型工場内で、レタス等の付加価値の高い機能性野菜を中心に、日々数千株を生産・販売しています。

植物工場は全国で大幅に増加しているようですが、平成30年9月にASIA GAP（東京オリンピックへの提供を視野に策定された日本版農業生産工程管理認証）を取得するなど、差別化と最先端の食の安全・安心に取り組んでいます。

また、美浜の特産に認定されている結球レタス「美しい玉(びいだま)」は、野菜の味を評価する、野菜ソムリエサミットにおいて、平成30年から2連続、銀賞を受賞した大変評価の高い野菜です。

(高橋記)



宮下清優社長からレクチャーを受ける



人工光型工場内を見学

全員協議会

5月23日と6月18日に議会全員協議会が開催され、次の件について話し合われました。

■5月23日

新たな5つの施策を展開

(1) 集落の活性化に向けた取り組みの方針について

町の人口が一人を切った危機的状況を踏まえた上で、極めて簡潔な資料ではありましたが、戸嶋新町長が目指されるまちづくりの方向性・手法の一端が見えた内容でありました。集落へ入っていき、住んでいることに幸せと誇りを実感できるまちづくりのため、互いに抱える課題や危機意識を共有することからスタートし、「集落元氣プラン」を策定していききたいということで、町民誰もが望むところで、皆が決意を新たに立ち向かっていきたいものです。

(2) ふるさと応援基金の活用方針について

これまでに全国から支援頂いた基金の総額が、1億8940万円に上ること、残額が1億8300万円あり、今後の活用について「ひと」「まち」「地域愛」に特化し

たいとの方針が示されました。

(3) 新エネルギーを活用した遊覧船のシステム開発・実証実験について

町では遊覧船事業再開に向け、国の補助事業を活用し、ソーラー船の開発に着手してはいますが、その経過報告と今後の進め方についての説明がありました。遊覧船再開については、観光振興の観点から総論として反対する議員はいませんが、運営方法や計画している船について、現時点では異論が多く賛同する議員は極めて少ないのが現状でありました。

(4) スマートコンパクトシティの整備計画について

いわゆる『道の駅』の進捗状況と今後の日程、予算規模について説明があり意見が交わされました。

令和元年度 5月〜幅杭設置・土地

評価、8月〜測量・物件調査、随時 用地買収・物件補償

令和2年度 用地買収・物件補償、

令和3年度 駐車場等設計・工事、年度末完成をめざす

(5) 防災行政無線デジタル化に向けた概要について

平成14年4月に運用を開始した現状の設備が、経年により老朽化していることと、総務省の周波数再編プランにより、令和4年11月以降現状設備でのアナログ電波が使用不可となることから、検討を余儀なくされている旨の状況と、計画の説明がありました。

■6月18日

町役場の喫煙所を移設

(1) レイクヒルズ美方病院の状況について

経営状況は以前に比べれば良好になりつつはあるものの、医師不足とそれに伴う患者数の減少という悪循環は絶ちがたく、地域医療の拠点として行政・住民が力を合わせて守るにも、利便性が悪く、希望と現実のギャップを痛切に感じました。無力感を感じていてばかりでは解決にはならず、地域・行政・議会が知恵を出し合い、一丸となり対処していかねばなりません。

(2) 健康増進法の改正に伴う受動喫煙対策について

喫煙による健康への影響についての説明と、法改正に伴う町の取り組みについて方向性が示されました。庁舎敷地内にこれまでからあった3箇所の喫煙所については廃止し、7月1日より撤去、代わりとして、な

びあす南側にある防災倉庫玄関軒先のみ（令和元年度末まで）可能とするものです。この案については立場の違いを超えて、他により良い措置を講ずるべきとの意見が相次ぎました。

(3) 北陸新幹線敦賀駅開業に向けた広域観光戦略について

県が掲げる「高速交通開通アクシオン・プログラム」に基づき、当面若狭湾エリアの玄関口となる敦賀市からの人の流れを如何に呼び込むか、当町としての戦略について説明がありました。地域交通ネットワークの強化、自然・歴史・産業基盤などの「ふるさと資産」の活用、若狭湾エリアを担う人材の育成・誘致に取り組むことと、三方五湖エリアとしてアッププログラムを主体とした、広域プロジェクトの推進に全力を挙げる計画です。

(4) 第五次美浜町総合振興計画の策定及び次期創生総合戦略の策定について

平成27年に策定した前期基本計画が、令和2年度で終了することから、現行計画の進捗状況やアンケート調査を踏まえて後期の計画を策定するものです。

(5) 原子力総合防災訓練の実施について

令和元年度の訓練は8月30日（金）・31日（土）に美浜発電所3号機を対象として美浜町を中心に実施されます。

（兵庫記）

特別委員会の動き

議会広報特別委員会

町議会広報研修会

日時 令和元年7月1日(月)

午後1時

場所 福井県自治会館

講師 (株)月刊総務 豊田健一氏

A 講義 「読者目線で親切な

広報紙を作るには」

B 議会だよりのクリニック

右記A・Bのテーマでの研修です。

Aでは、1「編集体制」のあり方、2「企画・編集」をどうする、3「編集・デザイン」で読者の目を引くには、4「言葉・文章」はわかりやすいか、といった点について講義を受けました。

Bでは、各町議会だよりのクリニックを受けました。

まず、1〜4までの講義を受けました。

「編集体制」のあり方では、「議員が参加する編集体制になっているか」「住民目線を常に意識し、誰が読むのかをも意識する」「住民の声を編集に反映させる工夫」が大切です。

「企画・編集」をどうするかでは、「住民に分かりやすいこと」「用語・背景の丁寧な説明が必要」「どうすれば読んでもらえるか、知恵を発揮すること」が大切です。

「編集・デザイン」では、「読者の目を引くには、関心の高い内容・言葉をタイトル・小見出しに付け、インパクトのある編集になっているか」「読みやすい紙面、親切的紙面になっているか」が企画の狙いを明確にします。

「言葉・文章」では、「わかりやすく、ふさわしい日本語を使うこと」「専門用語には注釈をつけることな

ど、住民目線で丁寧な解説をすることが大切です。

Bでは、豊田先生が、各「町議会だよりのクリニック」をされました。それぞれ、長所・短所が指摘され、これからの編集の参考になりました。美浜町議会だよりは、見やすさ等高い評価を頂きました。

研修を終え、住民の多くの方によく読まれる、参加してもらええる編集など、課題はたくさんあると思います。(寺田記)



講演される豊田先生

地域づくり拠点整備特別委員会

施設整備ゾーンの杭打ち箇所を確認

7月5日午前10時から、地域づくり拠点化施設に係る現地視察が行われました。

この施設は分かり易く言えば「道の駅」のことで、「人々が集い、育み、美し美浜を体感できる賑わいの交流拠点づくり」を行う施設です。場所はJR美浜駅前の西側、敷地面積は約12000㎡で、今年度から用地の取得が行われます。

現地視察では、この施設の計画整備区域(国土交通省※約4500㎡と町の整備分約7500㎡)の施設整備ゾーンの杭打ちが出来たので、その位置確認を行いました。

なお、道の駅(地域づくり拠点化施設)の概要については、今回の議会と語ろう会の共通テーマとして意見交換を行う予定です。

※道の駅部分

(辻井記)

組合議会の動き

敦賀美方消防組合議会

第21回美浜消防団小型

ポンプ操作大会

6月23日(日)美浜消防署訓練場において、第21回美浜消防団小型ポンプ操作大会が開催され、美浜町内から12チームが参加し、美浜町議会から議長及び敦賀美方消防組合議会議員3名が出席しました。

参加した各チームは、日々の訓練で習得した、小型ポンプ基本操作技術の成果を披露しました。

各チームの操作技術は大変すばらしく、安心することができました。

優勝は、第3分団第4部の興道寺チームでした。消防団員の日々の活動に敬意と感謝を申し上げ、災害に強い美浜町に、安全で安心な町づくりに、ご協力をいただく確認をして閉会しました。



大会審査結果

- 1位 第3分団第4部(興道寺)
 - 2位 第2分団第6部(太田)
 - 3位 第4分団第4部(久々子)
- おめでとうございました。

(川畑記)

公立小浜病院組合議会

新しい組合議会の構成替えを実施

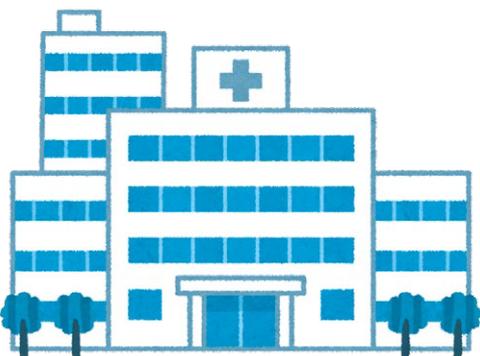
7月8日午後3時より、公立小浜病院組合議会が開催されました。

当日は、議長・副議長の選挙、常任委員の選出、委員長・副委員長の互選が行われました。これは、4月に小浜市とおおい町において議会議員選挙が行われたこと、また、若狭町議会において当組合議会議員の改選が行われたことによるものです。(美浜町議会からの選出議員には変更はありません)いずれも、当組合議会に関する申し合わせにより、各市町の議会から推薦された議員が指名推薦で選出され、本会議で承認されました。議長には小浜市議会の小澤長純議員が、副議長には若狭町議会の松本孝雄議員がそれぞれ就任しました。

また、今回の議会において「平成30年度病院事業会計予算繰越報告」が上程され、産婦人科・小児科外来

改修工事と介護老人保健施設の原子力災害対策施設整備事業に係る費用の繰り越し計算書の報告があり、全員賛成で承認可決されました。また、当組合の現教育委員会委員の任期満了に伴い、新しく若狭町の中村正一教育長の就任を認め、議会も同意しました。

小浜病院では、4月より前小西病院長から谷澤明彦病院長に交代しました。谷澤病院長は「職員一同が日々成長するとともに、住民の皆様にも良質な医療を継続したい」と抱負を述べられていますので、議会としても事業会計も含め、しっかりと見守っていきます。(辻井記)



美浜・三方環境衛生組合議会

エコクル美方 ガス化溶融 炉施設が故障 約一ヶ月の ごみ搬入ストップとなる

今年度の1回目の休炉点検（5月16日～26日）後、6月1日23時45分頃に異音が発生し、急遽運転を停止しました。調査した結果、溶融施設の誘引通風機内のベアリングに異常



（異音・振動）がある事が原因と判明しました。

本来の定期点検や一時的な故障時に休炉することは問題ないようですが、それにも関わらず、今回、一か月余りの搬入ストップとなったのは、町の人口が減少傾向にある反面、可燃ゴミの排出量は増加しており、ゴミ貯留ピット（受入槽）に殆ど余裕が無く、24時間運転しても処理が追いつかず、ごみが貯まってしまいう状況下でピットが満杯となり、修繕による休炉の期間中の受け入れを中止せざるを得なかったためです。さらに、リサイクル施設に持ち込まれる資源ゴミ、粗大ゴミからも可燃ごみが発生（畳・木製家具等）する為、施設への直接持ち込みも中止した様です。

住民の皆さんにおかれましては、家庭ゴミを少しでも少なくする努力をお願いします。（山口記）

嶺南広域行政組合議会

8月に開催される臨時会に 向け、事前代表者会議を開催

7月9日に、若狭町役場三方庁舎において、当組合の市町代表者会議が開かれました。

先の敦賀市、小浜市、おおい町の議会議員選挙に伴い、親議会での組合議員の異動で当組合議員の構成にも変動がありました。そのため、当組合議会でも議会申し合わせにより代表者会議が招集され、8月の臨時会に向けた事前打ち合わせを行いました。

8月臨時会から、議長を始めそれぞれの役員の改選もあるため、議会申し合わせにより、市・町ブロックで協議し指名推薦議員を選任し、代表者会議で同意しました。

当組合議会に大きく係わる、北陸新幹線小浜・京都ルート の早期実現は、嶺南地域が一丸となって取り

組まなければならない課題です。

3年半後に敦賀まで北陸新幹線が開通すると同時に、小



浜ルートの工事が始まるよう国やJRを動かさなければなりません。そのためにも、京都・大阪の住民の関心が高まる行動が必要です。

もう一つは、この嶺南地域に集中する原子力発電所に関する問題で、国の考えは今だにはつきりと見えないのが現状です。廃棄物の処理場について、これからの新たな廃炉産業やエネルギー産業が嶺南の経済活性化につながるよう、組合議会として広域をまとめる取り組みの必要性を感じます。（辻井記）

町村議会議長・副議長研修

これからの町村議会を考える

5月28日に、全国町村議会議長会主催の町村議会議長・副議長研修が、東京国際フォーラムで開催されました。

当日は、全国926の町村議会から約1900名の参加のもと、これからの町村議会を考えるを全体テーマとして開催されました。

最初に、この会の会長である櫻井政人議長（宮城県利府町議会）の挨拶がありました。その後、町村議会の議員報酬等のあり方検討委員会が行った最終報告が、構成委員である大学教授3名によるパネルディスカッション形式で行われました。最近の町村議会の動向や、議員報酬等の課題、報酬・議員定数に関する調査結果の分析についての説明の後、町村議会の今後の取組みと課題について担当教授か

ら報告がありました。

議員報酬は議員定数に大きく関係しており、報酬の低水準化は最近の議員のなり手不足や無投票当選にも関わっている事が示されました。

また、報酬は、自治体の人口規模で差があり、専業で若い世代が議員になるにはハードルが高い現状にあります。一方で、議員報酬を上げることについては、住民、マスコミ等からの厳しい批判も存在しています。そのため、住民の議会活動への理解を促進するために、議会報告会や住民との討論の場の設定など、住民の意見を自治体行政に反映させるための活動が求められるとの説明がありました。

第2部では、今年度、町村議会特別表彰を受けた、長野県喬木村議会、鳥取県若桜町議会、京都府与謝野町議会から実践取り組みが発表されました。

（辻井記）

知っ得議会議会シリーズ 13

「議会権限の構図

「チェック機能の充実強化」

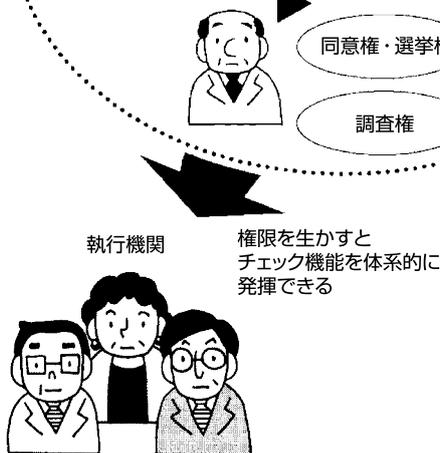
地方分権時代の議会では、2元代表制の一躍を担うため、議会は首長と切磋琢磨してより良い地域経営を行わなければなりません。議会は、監視権、調査権の権限を活用してチェック機能の充実強化を図れます。また、監査請求権も与えられ、美浜町議会でも議員の一人が監査委員として、行政監査を実施しています。



議会の招集権は、いまだに首長にあります。議員定数の4分の1以上の請求で臨時議会が開催されます。また、議長にも臨時議会の請求権が付与されています

（2006年改正）

（議会広報特別委員会）





令和元年度 議会と語ろう会

開かれた議会、そして町民のみなさまに信頼される議会を目指し、「議会と語ろう会(議会報告会)」を開催いたします。

「議会と語ろう会」とは、議会活動についてご報告させていただくとともに、議会や町政についてみなさまと意見を交換するために開催するものです。

今回は、意見交換を下記の団体を対象として実施させていただきます。



共通テーマ 地域づくり拠点化施設(≒道の駅)の概要について

対象団体	日時	会場	テーマ
美浜町漁業協同組合	7月26日(金) 午後7時～	なびあす	①共通テーマ ②漁協の後継者問題について ③その他
美浜町商工振興会	7月29日(月) 午後7時30分～	わかさ東商工会 美浜支所	①共通テーマ ②美浜の観光振興について ③その他
美浜町社会福祉協議会 ・あいばる	7月26日(金) 午後7時30分～	はあとびあ	①共通テーマ ②生活困窮者・児童発達支援 について ③その他

主催：美浜町議会(お問い合わせ Tel 0770-32-6711 議会事務局)

編集後記



人口減少のピンチと新幹線延伸のチャンスが交錯するせいか、県内ではよく「地域間競争」という言葉を目にし、各市町で種々の施策が進んでいます。一方ICT・IoT・AI・RPA等々の頭文字が紙面を賑わし、時代が急激に変わりそうです。

6月議会が終わり、美浜には大きな各種事業が目白押しになりました。道の駅新設、レインボーライン山頂公園改修、園芸LABO&こるぱの開業、ソーラー遊覧船開発、産業団地太陽光発電新設、はあとびあ改修、庁舎改修等々、美浜の将来を左右するものも多くあると思います。

いづれも知恵と努力次第で、どのような結果にもなりうる大事業です。広域連携・持続可能性等の視点を持ちながら、切磋琢磨して鍛え上げ、いい意味での地域間競争を勝ち抜かねばなりません。ご意見をお寄せください。(高橋記)

美浜町議会広報特別委員会

- 【委員長】 辻井 雅之
- 【副委員長】 寺田 順一
- 【委員】 竹仲 良廣・兵庫 賢一
- 山口 和治・崎元 良栄
- 高橋 修